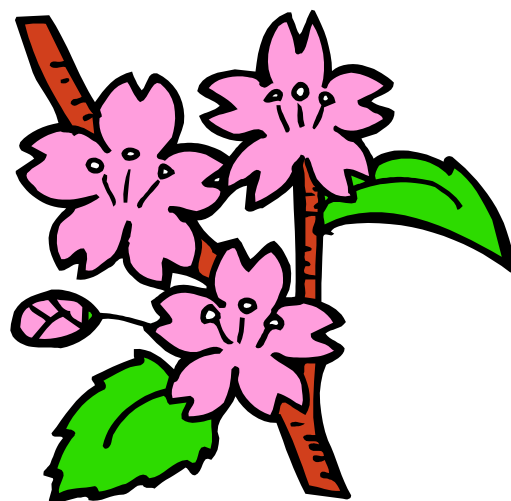


女性まちづくり委員会 提言書

こころに花を
～ 五感で味わう石川町 ～



平成 19 年 11 月

私たち「女性まちづくり委員会」は、石川町第5次総合計画の策定に役立てていただくよう、まちづくりについて女性及び住民の立場から議論を重ねてまいりました。この会議で議論された意見をもとに、「こころに花を～五感で味わう石川町～」をテーマとして、次のようにまとめましたので、ここに提言いたします。

「こころに花を～五感で味わう石川町～」

人口、健康、環境や観光など、さまざまな分野の話題が委員会の中で出されましたが、特に町のシンボル“桜”に関係したことが最も多く話題となりました。このことから、私たち住民のこころに桜のような花が咲き、その花が人から人へ循環していくことで、より石川町の良さを味わえることをイメージし、このテーマを設定しました。



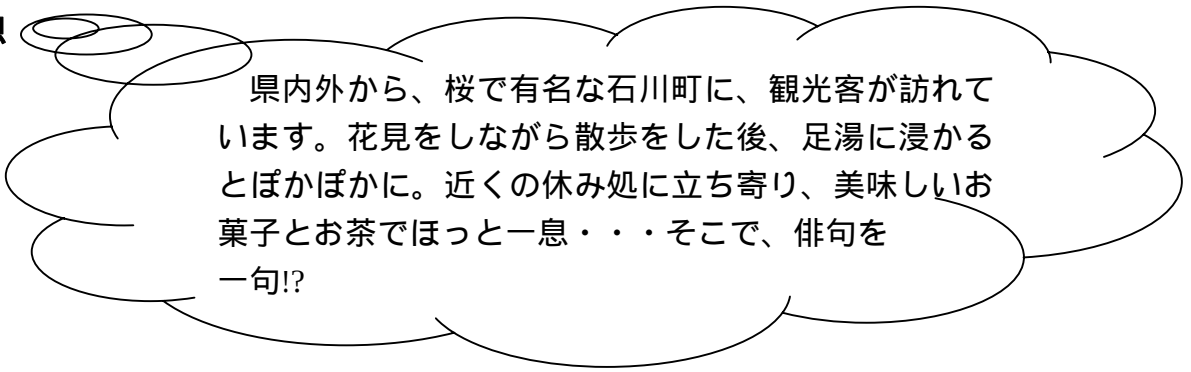
五感

1【見る・聞く】

(1) 桜

春、石川町に咲き誇る桜は、本当に見ごたえがあります。より多くの観光客に石川町の桜を観て楽しんでもらえるまちづくりを目指します。

理想



県内外から、桜で有名な石川町に、観光客が訪れています。花見をしながら散歩をした後、足湯に浸かるとぽかぽかに。近くの休み処に立ち寄り、美味しいお菓子とお茶でほっと一息・・・そこで、俳句を一句!?

提言

観光客に分かり易い桜の看板の設置、特に県指定の重要文化財である高田桜の看板を目立つようにすることで、アピールし県内外より多くの人達を呼びこみ、交流人口の増加を図りましょう。

桜の時期だけでも足湯、駐車場、休み処の設置をし、おもてなしのまちづくりで多くの方を歓迎しましょう。

桜を活かした食品（和菓子・洋菓子・ソフトクリーム・そうめん・うどん）の開発を菓子組合や製麺所に依頼したり、さくら染め小物の販売やさくら染め教室を開催したりと、遠くからでも足を運んでくれるような、石川町にしかない個性的なまちづくりをしましょう。また、石川町の歴史と関連した食品の流通により、歴史及び情報を循環させましょう。

桜を詠んだ俳句・短歌・川柳・写真等のコンクールを実施し、文化的なまちづくりをしましょう。

石川町の桜をより全国発信するため、オールシーズンのまちづくりをしましょう。春は花見、夏は桜そうめんによる流しそうめん、秋は桜うどんで芋煮会、冬はイルミネーションと、オールシーズン石川町を売り出しましょう。

石川町に多くの人が訪れるよう、桜を中心として積極的に町をアピールし、尚且つ私たち自らが楽しむことで、町全体の経済の潤い、商工業の発展につながり、元気な石川町となるのではないのでしょうか。

(2) 自然

石川町の豊かな自然を目にし、その中で生活できることは一番の幸せではないでしょうか。この自然を次世代へ残し続けるため、住民一人一人が、環境保護に努めるまちづくりを目指します。

理想



平成 30 年、緑萌える 5 月の朝、子どもたちが元気に学校へ登校しています。遠くからは、鳥のさえずりも聞こえ、川の水が光を反射し、きらきらと輝いています。

自然が多く安全な土地を求めて、石川町へ転入する家族も増加してきました。

提言

きれいな川を守るため、環境を保護するまちづくりをし、美しい景観を保ちましょう。E M 菌（20 年前に琉球大学農学部比嘉教授が開発した有用微生物群）は、環境汚染の原因となる米のとぎ汁を利用し、生ゴミを家庭菜園などの肥料にしたり、悪臭緩和や河川浄化の効果が期待できます。各家庭から出る生活雑排水は、出来るだけ汚さない、または浄化してから河川へ戻すような対策を実践していきましょう。

住民一人一人がゴミを減らすよう意識し、自然にやさしい物質の循環社会を望みます。買い物時のマイバック、簡易包装、ゴミのリサイクル分別、洋服などのリサイクル推進のほか、ゴミを減らす工夫についての勉強会から実行してはどうでしょうか。

子育ての世代や団塊の世代を中心に、地震の少ない安全な土地であることを PR し、石川町へ移住したくなるような施策で人口の増加を図りましょう。

住民一人一人の環境保護の意識により、美しい町を保ちましょう。豊かな自然の中では、鳥や昆虫などの生き物の声がシーズンごとに響き、住む人の心を和ませてくれます。自然豊かなまちづくりは、心も体も元気な人づくりへとつながるでしょう。

(3) 子ども

子どもたちのにぎやかな遊び声は、私たちのところを和ませ、家庭をにぎやかにしてくれます。多くの子ども達が元気で健やかに育つまちづくりを目指します。

提 言

小さな子どもが遊べる遊具のある、公園の整備により子どもに安全なまちづくりをつくりましょう。

児童クラブ、子育てサポート、地区公民館事業（長期の休みに子どもの集まることのできる交流拠点の確保）などの充実により、働きながら安心して子育てが出来る体制を整備しましょう。このような体制や制度を活用し、地域の子育て事業にお年寄りが生き生きと参加することで、世代の交流が図れます。

結婚しても経済的な理由で子どもを産まない家庭もあるので、子育て世代の働く場所の確保（既存企業の拡大または企業誘致）をし、経済的な面から少子化対策を行いましょう。

石川町の地域特性を生かし、工夫された出会いの場を企画するなど、結婚応援プランを充実させましょう。

子どもたちの学校生活の充実と学習に適した環境を整えるため、出生数から推測される適正な学校の規模を望みます。また、子どもたちが安全に通学できる通学路の整備や通学手段の整備を望みます。



2【触る・つくる・食べる】

石川町の土地に触れ、風土・気候を活用しながら作物をつくり、加工・販売をし、四季折々においしいものを食べる楽しみのある地産地消のまちづくりを目指します。

提 言

石川町でつくられた季節の野菜、加工食品（凍み餅、梅干、漬物等）を販売することで、高齢者や農業従事者の長年の智慧を、人から人へ循環させましょう。また、豊富な経験と技術の提供により、特産品を開発しましょう。

高齢者等の生きがいと健康づくりのため、栽培・加工・販売・消費活

動で、心身ともに健康的なまちづくりをしましょう。このことにより、高齢者ばかりでなく、町民すべての活性化につながり、医療費や保険料の抑制にも効果があるのではないのでしょうか。

石川町産のものがいつでも買える、いつでも食べさせてくれる、トイレもあり安心して休憩ができるといった場所を、空き店舗や町管理の未使用施設を利用して、地産地消の活動拠点をつくりましょう。町内の食材、町内の人の腕で、おいしい家庭的な味を売りに低料金で提供すれば、口コミ等で話題となるのではないのでしょうか。加えて、生産・加工・販売の連絡を密にすることで、処分される野菜等の有効活用にもなるでしょう。

町内で行なわれている地産地消の活動に、誰もが楽しくかかわれるような、オープンな地産地消のまちづくりをしましょう。

3【香り】

石川町にはさまざまな香りがあり、どの香りも私たちの生活に潤いを与えてくれます。自然の香りやおいしい匂いの立ち込める、人のぬくもりを感じられるまちづくりを目指します。

提 言

温泉の香りや湯気がただよう、あたたかなまちづくりをしましょう。温泉の気軽な日帰り入浴をよりPRし、子ども連れの家族、高齢者、誰もが利用しやすい環境をつくりましょう。

ひとのぬくもりが息づくまちづくりをしましょう。高齢者世帯が増えているので、地域全体で声を掛け合い、お互いに助け合うネットワークをつくりましょう。

《石川町の香り》

春・・・桜の香り、土の香り、若葉の香り、まんじゅうを蒸かす香り
夏・・・水の香り、梅雨の香り、森林のすがすがしい香り、夏野菜の香り、花火の香り
秋・・・果物の香り、稲の香り、秋祭りの縁日の香り、八槻市の香り、新米の香り
冬・・・家庭の鍋の香り、お正月の香り
雪景色の香り、どんと焼きの香り



すべての町民が健康で安心して、石川町で生活できる喜びを味わえるよう、以上の内容が今後のまちづくりに役立つことを期待いたします。

平成 19 年 11 月 26 日

石川町長 加納武夫 様

女性まちづくり委員会

女性まちづくり委員会委員名簿

金内奈緒子	竹島 君
小林 ヒサ	中村 直子
近内マリナ	二瓶 元子
瀬谷美代子	深谷 裕子
関根 英子	小池 幸子
添田アキノ	角田 祥子

(事務局 鈴木佳子 曲山孝子)

女性まちづくり委員会 会議経緯

平成 19 年 6 月 19 日 委嘱状交付式・第 1 回女性まちづくり委員会
平成 19 年 7 月 31 日 第 2 回女性まちづくり委員会
平成 19 年 8 月 28 日 第 3 回女性まちづくり委員会
平成 19 年 9 月 21 日 第 4 回女性まちづくり委員会
平成 19 年 10 月 23 日 第 5 回女性まちづくり委員会